

旅行に出かける。すると、観光地にはお土産店がある。とりあえず入る。一通り見る。楽しい時間である。問題は、何を買うかである。せっかく遠くまで来たのだからと、何かは買いたくなる。自分がこの場所に来たという証が欲しくなる。

学生の頃は、提灯を買っていた。どうして提灯にしたかは忘れてしまった。一つめは、たまたま提灯を買っただけのことだったのかもしれない。二つめは、この前、提灯を買ったから、今回も提灯にするかぐらいのことだったのかもしれない。

後は、もう止まらない。どこに出かけても提灯である。提灯には、ちゃんと観光地名が入っている。見れば、どこに行ったことがあるかが分かる。また、買うときは、小さくコンパクトに納まるのもよい。自分の部屋に提灯を並べて飾っていった。いつの間にか、20個以上になり、私の部屋は提灯の部屋になってしまっていた。

このまま、増えていったらどうなるのだろうか。そんな不安がよぎった。そもそも提灯は、和室でない合わない。洋室では、提灯だけが浮いてしまうのが容易に想像できる。すると、急に提灯への熱情が冷めていった。

どこかに出かける。ルーティン、決まり事のようにお土産店に入る。さて、これからは何を買うことにするか、考えた。頭を働かせた。あまり、かさばらないほうがいい。置くためのスペースの問題もある。価格は1000円程度だろう。やはり、観光地名が入っていないと意味がない。

お土産店には、数え切れないほどの観光地名が入ったお土産がある。だが、よく見ると、定番のお土産というものがある。どこの観光地に行っても、どこのお土産店にもあるものである。それでいて、かさばらず、1000円以内で買えるものである。

見つけた。決めた。私が出した結論は、「耳かき」である。形状は細く、ペンのように縦に置ける。価格は350円から500円が相場である。少し凝ったもので、大きめのものでも1000円程度である。ただ、細いがゆえに、観光地名が小さく目立たないが、その分、先端部分に工夫が施されており、その観光地の特徴を表していることが多い。

一度決めると、もう迷わない。お土産店に入っても、まずは耳かきを探す。種類があると、どれにするかと検討に入る。そして、購入すべき1点（1本）を決める。あとは、ゆっくりと店内を楽しく巡るのである。

耳かきが置いてあるところでは必ず買っていった。私の結論だが、耳かきはどこにでもある。とりあえず、買うだけ買った。そのうち、展示用ケースを購入し、展示スペースを決めるつもりだったが、何もしないままに月日が経過した。

すると、ついに事態が動き出した。大きな地震があり、その片付けの際に、家人が耳かきのディスプレイを始めてくれた。購入時の袋に入ったままのものもたくさんあった。その作業を娘が引き継いで完成させてくれた。新たにできた耳かきコーナーに行ってみると、ものすごかった。数が多すぎて数える気にもならなかった。娘が数えてくれたのだが、途中で断念したそうである。

これだけの耳かきがあるということは、それだけいろいろな所に出かけているということである。よくもこれだけ行ったものだと、自分にあきれてしまう。たかが耳かきといえど、なかなかユニークなものもある。その存在価値は、侮れない。

あなたのコレクションは何ですかと聞かれれば、耳かきですと答えるだろう。この「校長室だより」を読んだ方で、耳かきコレクターの方がいらっしゃれば、あるいは、耳かきコレクターの方をご存じの方は、ご連絡をお待ちしています。